

令和5年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・感染症対策が緩和されたことから実施できる単元が増え、生徒同士の関わり合い、教え合いを意識した場面の設定ができた。
- ・授業規律を統一したことで体育の授業への参加率が非常に高く、年間を通して意欲的に取り組むことができた
- ・保健や体育理論の授業で得た知識を、体育で実際に活用して授業を行うことができた。

(2) 課題

- ・校庭での活動などが多いためICT機器の利用の頻度が他教科と比べて低い。
- ・学習カードを使用した種目と使用しない種目が出た。
- ・マスクの着用しながらの活動で十分な主運動ができない生徒が見受けられる。

2 分析 (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	教科書を持たずに行う教科のため授業中に説明した内容が定着しづらい。 基礎体力が低い傾向にある。基本的技能を徹底的に身に付けさせる必要がある。	授業の振り返りを行う学習カードの提出は大幅に改善されたが、課題解決のための思考に課題がある。	チャイム前の準備時間の行動がおおむねよくできた。 授業中の無駄な時間を省く意識も出てきているため、運動量の確保ができた。
第2学年	基本的技能が身に付いてきた。得意不得意関係なく、意欲的に授業に取り組んでいる。	自分の考えを文章にすることに課題がある。自分の生活などの身近な問題と関連付けさせる必要がある。	授業準備などを積極的に行い、仲間に対する補助や、助言を行うなど、共に学ぼうとしている。
第3学年	前向きに授業に参加し、得意不得意関係なく、課題に取り組んでいる。	自分にあった課題設定ができてきている。ルールやグループ決めなどを工夫して行っている。	授業中の無駄な時間を省き、運動量の確保ができた。仲間に助言をするなど、共に学ぼうとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	ICT機器を活用し、自らの体や体力に感心をもたせる。視聴覚機材を活用し理解を補助する。ルールなどは、視聴覚教材を、技能面のポイント等はタブレットを使い、自己分析させ、理解につなげる。 基本的技能を徹底的に身に付けさせ応用、活用できる素地を形成する。	自分の体・健康・こころの発達について自分の意見をまとめ、考えられるようにする。 仲間同士の気づきや、教え合いの場を積極的に行い、集団での自分の役割を理解させていく。	授業前の準備を徹底し、チャイムと同時に授業が開始できる環境を整える。服装や授業規律を徹底することで安心安全に授業を取り組める体制づくりをする。苦手意識がある生徒に対して、スモールステップを設け、達成感を感じさせ、学習意欲を高めていく。
第2学年	健康と環境について日常生活を振り返り、問題を見付け、実生活に活用できる授業を工夫していく。 1年生で身に付けた基礎基本を活用し、自己の得意技を身に付け、個の技能に応じてさらに発展した技や新しい技・苦手な技を学習させる。	環境問題については時事問題を取り上げるなどして自分に何ができるかを考えさせる。応急処置については、実技を行い、実際に実践できる力を身に付けさせる。 視聴覚機材やタブレット、模範演技を通して、技の仕組み・構造を理解させ、他者に伝えられるような場を設定する	互いのプレーをよく見ることから、自分やチームの能力に応じた課題設定・学習計画を立てさせ、仲間と学び合う楽しさを感じさせる。
第3学年	健康な生活について知識を身に付けさせるため、視聴覚教材やタブレットを活用して調べ学習を行い、身近な話題から実生活に即して理解させていく。 運動から離れる生徒が多くなるため、補強運動やランニングなどを取り入れ、運動能力の低下を防止する。高校での学習につなげるため、1単元あたりの時間数を増やし、より高度な技能を身に付けられるようにする。	健康な生活と病気の予防などについて自分の意見を考え、まとめ、発表することで他者に伝えられるような場を設定する。 ペアワークでの気づき・チーム内での教え合い・役割分担・作戦等で、集団での自分の役割を理解させる。	生徒の自主的行動を促し、係を中心とした授業管理をしていく。自分達で授業をつくるという意識をもたせることで、授業への積極性の向上を図る。 スポーツテストの結果分析から、自分の運動能力を知り、自ら運動する場面を設けるなど、運動の意欲を高める。